

2023年5月の行事予定表

1	月		16	火	
2	火		17	水	
3	水		18	木	祈禱会
4	木	祈禱会(休み)	19	金	
5	金		20	土	
6	土		21	日	地区担当牧師説教
7	日	奨励: Y兄、役員会	22	月	
8	月		23	火	
9	火		24	水	
10	水		25	木	祈禱会
11	木	祈禱会	26	金	
12	金		27	土	
13	土		28	日	ペンテコステ礼拝 永松師説教・聖餐式
14	日	奨励: T姉			感謝会
15	月		29	月	
			30	火	

5月お誕生・洗礼記念日の皆様おめでとうございます。(敬称略)

編集後記

- ◇ 2023年度、教会が新しい歩みを始めたことを、月報編集を通じてひしひしと感じています。
- ◇ 巻頭言はナザレン教団理事長・土肥努先生のご挨拶から引用させていただくことができました。
- ◇ 日曜日は、永松先生の礼拝説教を月に一度お聴きできる幸いをかみしめています。あとは地区の牧師先生が5月から月一度巡回説教してくださいませ。不定期ですが教会員の「証し」の日もあります。
- ◇ 5月号は、イースター礼拝特集と、証し(K兄・D姉)、年次教会総会および第3回教会交流会報告が掲載できました。
- ◇ 今月で384号ということは、月報が満32年を経たこととなります。編集委員会3名のためにも、覚えてお祈り頂けたら幸いです。

教会月報

2023年5月

No.384

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

御心が行われますように

全国のナザレンの皆様、いよいよ2023年度の新しい歩みが始まりました。この年度も今までと変わりなく、それぞれに与えられた場所において主日ごとに神を礼拝し、御言葉に聴き従い、復活の主が共にいてくださることを信じて、喜びと感謝と賛美をもって日々の信仰生活に励みましょう。

私たちは、主日礼拝の中で主の祈りを唱え、日々、この祈りを祈りつつ生活しています。その主の祈りの第三の祈りが「御心が行われますように」です。御心とは、神の「ご意志」であり、すなわち神が成そうとしている思いが、そのとおりに実現しますように、と祈るのです。ところが実際には、自分の思いや願いが実現されることを求め、そうなれば喜び、ならなければがっかりする、私たちはそのように絶えず一喜一憂しながら生きているのです。では一体どうすればよいのでしょうか。私たちに必要なのは、自分の意志が成ることを求めるのをやめて、神のご意志、御心が成ることを求めるように方向転換をすることではないでしょうか。

あのゲツセマネにおいて、主イエスは悲しみもだえつつ、「父よ、できることなら、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。」(マタイ26:39a)と祈られました。捕えられ、十字架につけられて殺されることは、主イエスにとって耐え難い苦しみなのです。しかしその苦しみを味わいつつも、続いて「わたしの願いどおりではなく、御心のままに」(26:39b)と祈られました。どうしようもない現実の真只中で、心の底から「御心が行われますように」と祈られたのです。そのように祈りつつ主イエスは、十字架の死への道を歩みとおされ、そのことによって、私たちの罪を赦してくださる神の恵みの御心が実現したのです。

ナザレン教団理事長 土肥 努
～ナザレン新報 No.894 より引用・転載承諾～



祝!! イースター礼拝 2023

今年のイースター礼拝は4月9日(日)。牧師不在という初体験のイースター礼拝は、イエス様の復活を共に祝いすべく、久しぶりに方々も共に23名の出席でした。ピンチヒッターを快く引き受けてくださった O 姉の司会、K 兄の証し「イースターの日で!!」、に励まされました。本日で礼拝出席最終日の D 姉は、2022年4月9日に召天された通子姉の遺影を手にご挨拶されました。

やはり、本日をひとくぎりにドイツへ発たれる F 兄・Y さんのお顔も見えました。礼拝後には女性会の労作・イースターエッグが配られ、笑顔いっぱいのイースターでした。昼食後は、有志で墓前にお花が供えられ復活の希望に満たされた一日でした。



2023年度教会総会報告

4月23日の礼拝後、2023年度の岡山教会総会が開催されました。今回は本来議長を務める代表役員の牧師不在のため、教団年会と同様に書記担当の Y 兄が議長を務めることが説明されました。出席16名、委任状提出19名、欠席3名が点呼により確認され総会成立となりました。用意された総会資料に沿って前年度活動報告・会計報告・今年度活動予定・今年度予算等が審議され、全て全会一致で承認されました。議場では前向きな発言も多く、大きな希望を感じることができた教会総会となりました。

礼拝証し

4月9日 「イースターの日で!!」
K.S.兄

◆ 今日お証ししたいのは「日めくり聖句カレンダー」によって聖句を頂いていることです。2020年7月11日から始めて毎日聖句を書写させて頂いています。日々の大切さを実感できる恵みだと思えます。ぜひやってみてください。



コンピューター用の使えない印刷用紙があったのでこれに聖書を書写することにしました。空いた時間を有効活用しています。創世記から始めて旧約聖書の半分ぐらまで進みました。

最近物忘れが多く、頭を使うことが重要だと思えますがこの書写で楽しく学んでいます。

◆ 私の母は京都の産院の学校で学んでいました。この近くにあったのが京都の上京ナザレン教会です。

若いときにこの教会に通っており、私の姉もこの学校で学んでいました。私が受洗したのもこの上京教会です。京都とのつながりが深い人生だったと思います。

◆ 私は毎朝家の前の運動公園で仲間とラジオ体操をしています。その中の女性が数年前の春に脳梗塞になられ言葉も歩くのも不自由になられました。私たち体操の仲間は彼女が話すのを静かに待って話しやすいように心がけていました。このときに学んだのは「人の話はよく聞く」ということ。教えられました。歩けなかったその方は今や小走りできるほど回復されて人間の凄さを実感しました。彼女と会うのが楽しみな毎日となりました。

◆ 週報には「日毎の糧」の欄があります。毎日の聖句を学ぶことができ私は救われました。この聖句をやはり書き写すことを続けており、現在ノート三冊目になっています。

◆ 日々の生活の中で取り留めの無い話でしたが、何気ない日々の営みの中でも神様の恵みを実感することができています。本当に感謝です。



第三回教会交流会報告

4月16日(日)礼拝後の45分間、2021年11月以来の教会交流会がもたれました。15名が四つのグループに分かれて、「2023年度岡山ナザレン教会はどのように進んでいったらよいか」というテーマで意見を出し合いました。発言のまとめは教会掲示板をご覧ください。

礼拝証し

4月2日 「御言葉によって」
N.D.姉



今日は御言葉の体験についてわかちあいたいと思います。私の救いの御言葉はヨハネ 15章 16節です。高校2年生の時、私が神様を信じるかどうか以前に神様が私を先に選び救い出そうとしてくれた、と分かり涙ながらに祈りました。いつも立ち返る御言葉です。

その後受験で御言葉によって支えられる大きな経験をしました。受験地に行くはずの日に大寒波が

押し寄せ交通機関がストップしました。当時の国鉄も飛行場までのバスも一切動きませんでした。公衆電話から母に祈ってと伝えましたが、とうとうその日は無理でした。母に再度電話をすると「祈っていたら詩編 57篇 10~11節(当時と訳文が違います)が与えられた。雲の上に神の栄光があると約束されたから、どんな雪雲も神様の栄光で晴れるから、信じよう」といわれました。周りはこの事態に困惑する人達の喧噪で騒然とした空気だったのに、この時自分の周りだけ静かな空間になりました。神様の御手の中にいる平安でした。

その夜よく眠り、翌朝再度空港へ行く算段をしました。国鉄もバスもやはり動いてなかったのですが、タクシーは千歳まで行くとのことで取り敢えず空港まではだどりつきました。こんな吹雪の日に空港まで来るのは人生かけた受験生くらいしかなくて、皆真っ白な窓の外を真剣に見ていました。御言葉をいただいたので、私は、飛行機は飛ぶと確信していました。その一方でたとえ飛ばなかったとしても、それは神様が与えてくださった最善の道なんだという信頼もありました。結果は大幅に遅れて飛行機は飛び、受験前日の夜遅く受験地に着くことができました。現実に希望はないのに聖書の言葉によって希望を持たされ平安を与えられるという経験を、若いときにできて幸せだったと思います。

その後、いくつかの節目節目で、御言葉によって教えてくださいと先ず神様に祈り答えを待つ姿勢を持てたのも、若い時にこの経験があったからです。(証の中の一つのエピソードのみまとめました。)

